

A区分・B区分・C区分共通

No.1(実演芸術)

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっぽんしゃだんほうじんかんぜかい 一般社団法人観世会		団体ウェブサイトURL https://kanze.net/
代表者職・氏名	代表理事 観世 清和		
制作団体所在地	〒 104-0061	最寄り駅(バス停)	東京メトロ銀座線「銀座駅」 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階
電話番号	03-6274-6579		
ふりがな 公演団体名	いっぽんしゃだんほうじんかんぜかい 一般社団法人観世会		団体ウェブサイトURL https://kanze.net/
代表者職・氏名	代表理事 観世 清和		
公演団体所在地	〒 104-0061	最寄り駅(バス停)	東京メトロ銀座線「銀座駅」 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階
制作団体 設立年月	1951年2月		
制作団体組織	役職員 代表理事 観世 清和 副理事長 山階 彌右衛門 副理事長 観世 芳伸	団体構成員及び加入条件等 その他、理事17名	
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者置く	本事業担当者名	齊藤 亜美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	森山 規子

制作団体沿革	<p>【沿革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1900年(明治33年) 観世会設立 ●1901年(明治34年) 新宿区大曲に観世会館を建設。活動拠点とする ●1951年(昭和26年) 社団法人認定 ●1954年(昭和29年) 戦災で焼失した観世会館を再建 ●1972年(昭和47年) 都市計画にとまない渋谷区松濤に舞台を移転。名称を観世能楽堂とする ●2000年(平成12年) 設立100周年を迎える ●2013年(平成25年) 一般社団法人に移行認可 ●2017年(平成29年) 活動拠点を東京都中央区銀座に移転。二十五世観世左近記念観世能楽堂として開場 ●2018年(平成30年) 東京都教育委員会より、観世能楽堂が「文化財等選定基準により選定した文化財等に係る施設」との認定を受ける ●2019年(令和元年)より、中央区教育委員会の委託により区立小学校児童を対象とした学生鑑賞能を継続して実施している ●2022年(令和4年) 本事業(文化芸術による子供育成推進事業)の実施団体の指定を受ける <p>能の大成者である観阿弥・世阿弥の子孫、二十六世観世宗家 観世清和を家元とする約700年の伝統を受け継ぐ観世流。能楽界を代表する流儀のひとつとして、日本の古典芸能の伝承と発展に精力的に取り組んでいる。</p> <p>「一般社団法人観世会」とは、その観世流を代表する団体のひとつであり、二十六世宗家 観世清和を筆頭に66名の観世流シテ方能楽師によって構成されている。当会が設立されたのは1900年(明治33年)。1951年(昭和26年)には社団法人となり、また2000年(平成12年)には百周年を迎えている。現在は平成29年、銀座に開場した「二十五世観世左近記念 観世能楽堂」にて、公演活動を行なっている。</p>				
学校等における公演実績	<ul style="list-style-type: none"> ●2017年(平成29年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2018年(平成30年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2019年(平成31年)3月春休み親子能体験教室 実施(1日) ●2019年(令和元年)6-7月中央区学生鑑賞能 事前学習訪問授業 実施(全9校) ●2019年(令和元年)7月中央区学生鑑賞能 実施(3日間) ●2019年(令和元年)8月夏休み親子能体験教室 実施(3日間) ●2020年(令和2年)1月いちにち能楽体験 実施(1日) ●2020年度(令和2年度)11-3月中央区学生鑑賞能 事前学習訪問授業 実施(全11校) ●2021年度(令和3年度)11-2月中央区学生鑑賞能 事前学習訪問授業 実施(全14校) ●2022年度(令和4年度)文化庁巡回公演事業 採択 実施(全9校) ●2022年度(令和4年度)2月中央区学生鑑賞能 実施予定(3日間) ●2023年(令和5年)3月春休み親子体験教室 実施予定 				
特別支援学校等における公演実績	無し				
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無			
	※公開資料有の場合URL				
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 一般社団法人観世会 】

対象	小学生(低学年)	-	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	はじめて能 2023 ～観世流能楽師とっしょに「体験する」能楽700年の世界～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【第1部】能楽を楽しく学ぶ！ 紹介と演技体験(所要時間:40～45分)</p> <p>◆イントロダクション「能楽を知る」 能面・装束などを用いての能楽紹介</p> <p>◆謡のお稽古体験 ワークショップの際に体験していただいた謡の復習 ※次項にて、お囃子の演奏に合わせて謡を体験するための稽古です</p> <p>◆お囃子の紹介・実演デモンストレーション・エア楽器体験 能楽で演奏される笛・小鼓・大鼓・太鼓という4つの楽器についての解説と実演 ※参加の皆さんには、能楽師の楽器演奏に合わせて、手元でエア楽器体験</p> <p>◆能と狂言の演技体験 ワークショップでも体験した能楽の感情表現について、 能と狂言の表現方法の違いを体験的に学ぶ</p> <p>(休憩10分)</p> <p>【第2部】能楽を観る！ 迫力の鑑賞体験(所要時間:40～45分)</p> <p>◆演目解説 スクリーンを使用して、これから鑑賞する物語のみどころを楽しく解説</p> <p>◆公演鑑賞／能「安達原(あだちがはら)」</p> <p>◆まとめと質疑応答</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>		
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況

演目概要

◆【全体】

能楽とは「能」と「狂言」という、2つの伝統芸能の総称です。室町時代に大成して以来、能楽は約700年の歴史を歩んできました。現在でも、日本各地には大小さまざまな能楽堂があり、春から秋には薪能という上演形式により、野外でも能楽が楽しられています。しかし、本事業が対象とする小中学生にとって、古典芸能としての能楽は馴染みがないものだと考えます。本事業に参加するにあたり、弊会でもその点を十分に考慮し、一人一人が能楽に触れた経験がないことを前提として、本公演とワークショップを実施いたします。

本公演は、全体を2部構成により進めて参ります。第1部では、先行して開催するワークショップの流れをもとに、能を楽しく体験していただくプログラムを実施いたします。第2部は、能楽界で活躍する第一線の能楽師による迫力ある公演をご覧いただき、ライブエンターテインメントとしての能楽の魅力をお伝えいたします。

◆【イントロダクション／能楽を知る】

能面・装束を目の前でご覧いただきながら、一つひとつの解説をおこないます。美しい囃りの施された迫力ある能面や、繊細な刺繍や文様が表現された豪華な衣装の数々について、実際の舞台上で使用する本物をご紹介しますことで、伝統芸能としての能楽を視覚的に学んでいただけます。

◆【謡のお稽古体験】

謡のお稽古は、ワークショップと本公演の2度に亘っておこないます。ワークショップの際に謡の詞章を記した資料を配布し、謡い方についてコツをお伝えします。本公演では、復習を兼ねてもう一度練習し、そのあとに続くお囃子体験の際に、総仕上げとしてプロの演奏に合わせて謡っていただけます。独特のリズムと日本の古語の美しさをいっしょになって体験する時間です。

◆【お囃子の紹介・実演デモンストレーション・エア楽器体験】

能楽は演技を担当する能楽師とともに、演奏を担当する囃子方とよばれる能楽師が舞台上上がり、総合的に物語を展開していきます。ここでは、笛・小鼓・大鼓・太鼓の4つの楽器の特徴、音色などを実際の演奏を交えながら解説いたします。和楽器の奏でる心地よい音色を全身で感じ取っていただき、参加する皆さんにはその場で「エア楽器体験」として各楽器の使い方を仕草で真似ることで体験していただけます。

◆【能と狂言の演技体験】

能と狂言はどちらも能舞台上で演じられますが、その表現方法や物語には大きな違いがあります。同じ人間の喜怒哀楽を演じてはいませんが、能は抽象的に厳かに、狂言は声高らかに賑やかに表現します。ここでは、能と狂言の演技法を比較することで、ワークショップでも一部体験する演技体験を更に深めていきます。

◆【演目解説】

いよいよ実際の公演に向けての詳しい解説をおこなっていきます。事前に物語のあらすじをまとめた資料は配布いたしますが、ここではスクリーンを使用し、実際の演能写真を場面ごとにご覧いただき、これから上演する物語のみどころをわかりやすくお話しします。

◆【公演鑑賞／能「安達原」】

能「安達原(あだちがはら)」は、能楽初心者の方にも鑑賞しやすい人気の高い演目です。迫力ある舞台を存分にお楽しみください。(下記「演目選定理由」も併せてご参照ください)

◆【まとめと質疑応答】

本事業の総まとめとして、参加する皆さんからの質問に答えてまいります。ワークショップや本公演をご覧いただいたなかで感じた疑問を、御慮なく能楽師に投げかけてください。

<p>演目選択理由</p>	<p>◆【能「安達原(あだちがはら)」上演について】 「安達原」の主人公は「道成寺」「葵上」とならんで三鬼女と呼ばれ、物語後半には「般若(はんじゃ)」という鬼の能面を使用することでも知られています。200以上の演目がある能のなかでも屈指の人気を誇り、能を初めてご覧になる方々にも十分に楽しんでいただける内容です。「安達原」は人里離れた山の中に佇む一軒のあばら家を舞台とし、約束を破って家主(鬼)の部屋を覗いたことで物語は風雲急を告げます。そこには、見てはならないとされるものに触れてしまう人間の深層心理、そして鬼の深い怒り・悲しみが様式的な美しさを伴って見事に表現されます。 本事業に参加する小中学生の皆さんには、怖い鬼が登場する単純な物語などではなく、含蓄に富んだ能を代表する古典作品としての奥深い魅力をお伝えしたく、上演作品として選定いたしました。</p> <p>◆【あらすじ】 陸奥(東北地方)を旅する山伏の一行。安達原というところで日が暮れたので、一軒の家に宿を求めます。どこか寂しげな女主人は、旅のなぐさみにと糸車を回し歌を歌って聞かせ、夜が更け寒さが増すと「決して寝室だけは見ないように」と言って薪を取りに出かけます。好奇心をおさえられなくなった供の者がそと寝室を窺うと、中には数知れない死体が天井まで積み上げられていました。あわてて逃げ出す山伏たちを、鬼の形相に変わった女が追いかけます…。</p>					
<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>本公演では、第1部にて児童・生徒のみなさんに公演に参加していただけます。参加形式は稽古形式を採用し、能楽師とともに能楽を体験するスタイルで進めてまいります。</p> <p>◆【謡のお稽古体験】 こちらでは事前ワークショップの時と異なり、能の中で歌に相当する、リズムカルな謡を体験していただけます。また、体験の最後には囃子方が登場して、皆さんの謡に合わせて演奏を行います。</p> <p>◆【エア楽器体験】 笛・小鼓・大鼓・太鼓の4つの和楽器は、能楽の演出に欠かすことのできない存在です。まずはその音色や音の出し方を能楽師が解説し、参加者のみなさんには手元で使い方を真似るスタイルで、演奏方法をいっしょに疑似体験していただけます。</p> <p>◆【能と狂言の演技体験】 日本古来の喜怒哀楽の表現を体験していただけます。能と狂言という2つの古典芸能の表現方法の違い、能楽独自の身体の使い方を、手本をご覧いただきながら学んでください。会場となる体育館空間を最大限に利用し、楽しくお稽古していきたいと考えております。</p>					
<p>出演者</p>	<p>※出演候補者多数のため、別紙にて一覧表を添付いたします</p> <p>【シテ方】 出演候補者32名のなかから、公演日期間により10名を選定 【ワキ方】 出演候補者 約9名のなかから、公演日期間により3名を選定 【囃子方】 出演候補者 約28名のなかから、公演日期間により4名を選定 【狂言方】 出演候補者 約6名のなかから、公演日期間により2名を選定</p>					
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 19 名 スタッフ: 3 名 合計: 22 名</p>			<p>運搬</p>		<p>積載量: 1 t 車長: 5.4 m 台数: 1 台</p>
<p>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	<p>前日仕込み 無</p>		<p>前日仕込み所要時間</p>		<p>時間程度</p>	
	<p>到着</p>	<p>仕込み</p>	<p>上演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>9時</p>	<p>9時～11時</p>	<p>13時～14時40分</p>	<p>10分</p>	<p>15時～16時</p>	<p>16時</p>
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。</p>						
<p>本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	
	<p>4日</p>	<p>4日</p>	<p>0日</p>	<p>4日</p>	<p>0日</p>	
	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>計</p>	<p>24日</p>	
	<p>4日</p>	<p>4日</p>	<p>4日</p>			
<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>						
<p>児童・生徒の 参加可能人数</p>	<p>本公演</p>		<p>共演人数目安</p>		<p>0名(観客席で全員参加のWSを実施)</p>	
			<p>鑑賞人数目安</p>		<p>600名</p>	



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



【公演団体名 一般社団法人観世会 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	200名まで
<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>ワークショップでは観世流能楽師4名が学校に伺い、児童・生徒の皆さんとともに実際に身体を使いながら、能楽の基礎を学んでいただきます。</p> <p>◆【1:礼儀作法】 ワークショップの冒頭にあたり、児童・生徒の皆さんに日本の礼儀作法の大切さを説明し、能楽師とともに姿勢を直し「宜しく申し上げます」というご挨拶をおこなっていただきます。また、終了時には「ありがとうございました」のご挨拶でワークショップを締めくくります。</p> <p>◆【2:能楽を知る】 伝統芸能である能楽は、約700年の歴史があります。能楽の歴史、能と狂言の違い、舞台を鑑賞するときの約束事や能舞台の説明などを解説していきます。なお、ここでは映像を利用し、能楽の歴史などを視覚的にご覧いただけます。</p> <p>◆【3:所作を体験する】 能楽には、独自の身体作法があります。ここでは能楽師の手本をもとに、「立ち方(カマエ)」、「歩き方(摺り足)」の体験を全員でおこなっていただきます。</p> <p>◆【4:謡の稽古】 本公演でご覧いただく能「安達原」の謡の一節を、全員で声に出して稽古します。また、本公演ではお囃子と合わせて謡を体験していただきたく、当日までの学習用資料を配布いたします。</p> <p>◆【5:演技体験①/祈り】 能「安達原」の後半の大きな見どころとして知られる、鬼と山伏が戦う「祈り」の場面の演技体験をおこないます。ワークショップでは代表者(10～20名)を選抜し、能楽師とともに舞台上に上がっていただきます。</p> <p>◆【6:演技体験②/能の感情表現と演技】 能には、喜怒哀楽の感情をはじめとする様々な特徴的演技があります。能楽師が手本を示し、日本古来の感情表現や演技を参加する全員で体験していただきます。</p> <p>※ワークショップ・公演当日ともに、経験豊富な能楽師が全面的に指導・サポートいたします。 ※ご要望により、質疑応答などもおこなうことができます。 ※コロナ禍の状況に応じ、ワークショップ内容は変更させていただく場合もございます。</p> <p>(所要時間:休憩含め90分程)</p>		

<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>◆【全体】 室町時代に大成した能楽は、約700年の歴史を誇る伝統芸能です。ワークショップでは、その歴史の中で確立された独自の表現方法を、単に頭で理解するのではなく、身体を使って学ぶことで、参加する皆さんに能楽を身近に感じていただくことを目指しています。一見すると難解と感ぜられる表現も、すべてにおいて演技上の意味が込められています。長い時間をかけて洗練させてきた能楽の所作一つひとつを、経験豊富な能楽師が目の前で丁寧に解説し、本公演を楽しんでいただくための事前学習・体験の時間を楽しみながら作り上げていきます。</p> <p>◆【1:礼儀作法】 日本のお稽古事は「礼に始まり、礼に終わる」といわれます。挨拶の大切さを学ぶことで、相手を敬い、感謝する気持ちを育み、日々の生活のなかでも率先して挨拶ができるようになるよう、礼儀作法の心構えを説いていきます。</p> <p>◆【2:能楽を知る】(※映像投影/プロジェクターとスクリーンを使用) 能楽の歴史は、そのまま日本の歴史を学ぶことに繋がります。まずは能楽が大成した室町時代から、江戸時代に式楽(公式の芸能)として認められた話題を中心に、能楽の歩んできた歴史をわかりやすく、端的に説明いたします。また、現代の演劇とは異なるさまざまな約束事や表現があるため、鑑賞のポイントとなる独自のルールを紐解き、初めて触れる能楽の世界を映像を交えてわかりやすく解説していきます。</p> <p>◆【3:所作を体験する】 能楽の身体技法の基礎である、立ち方(カマエ)、歩き方(すり足)に特化した体験を行っていただきます。特にすり足の体験では、目を瞑ってすり足をしてみる、ゆったりとしたリズムから徐々にスピードを上げてすり足をする等、生徒さん達が身体のバランスを整えて、集中力が増すための工夫を行います。</p> <p>◆【4:謡の稽古】 本公演でご覧いただく能「安達原」の謡のうち、特にセリフに当たる部分の謡を一節ずつ謡っていただきます。前シテの心優しい中年女性の役、後シテの鬼女の役、ワキの山伏の役など、それぞれの呼吸法や発声方法・役の気持ちなどを学習しながら謡うことで、演目や役への理解を深めていただきます。</p> <p>◆【5:演技体験①/祈り】 「安達原」では約束を破り、山伏たちに部屋を覗かれたことで主人公が鬼の本性を現します。ここは物語の大きな見どころである、山伏が「祈り」の力で鬼を鎮めようと戦いを挑む場面です。ワークショップでは、児童・生徒のなかから代表者(10~20名)を選抜し、「打杖」という小道具をもって鬼の役を演じていただき、山伏役の能楽師と実際に対決していただきます。能は様式美の芸能であり、それぞれに決まった型が存在します。700年の歴史のなかで培われた型を学ぶことで、日本古来の身体表現を体感していただくことを目指しています。</p> <p>◆【6:演技体験②/能の感情表現と演技】 演劇である能には、物語のなかにさまざまな喜怒哀楽などの表現があります。しかし、能は実際に声を上げて笑ったり、泣いたりというリアルな表現はおこないません。わずかな所作(身体の動き)によってそれらの感情を表現するところに、能の面白さ(芸術性)があるのです。ここでは、一人一人が物語の登場人物に成りきっていただき、喜怒哀楽の表現や型として磨き上げられた能のさまざまな演技を体験し、能のなかに培われる特徴的な感情表現や演技を学んでいただきます。</p>
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>本プログラムは一方的な講義ではなく、能楽師と参加者が楽しみながら時間を共有することを目指しております。参加する児童・生徒の反応やペースを見つつ実施いたしますので、発育に合わせて、丁寧に実施して参ります。なお、ワークショップ【2】にて使用する映像は、全編字幕付きです。</p>

リンク先	No.2	【公演団体名 一般社団法人観世会】
出演者	<p>No.2「出演者」別添一覧表 ※ 〃は日本能楽会会員(重要無形文化財総合認定保持者)</p> <p>【シテ方】 <u>山階彌右衛門</u> <u>観世芳伸</u> <u>観世三郎太</u> <u>浅見重好</u> <u>上田公威</u> <u>藤波重彦</u> <u>藤波重孝</u> <u>野村昌司</u> <u>武田友志</u> <u>角幸二郎</u> <u>清水義也</u> <u>坂井音雅</u> <u>木月宣行</u> <u>坂口貴信</u> <u>坂井音隆</u> <u>武田文志</u> <u>坂井音晴</u> <u>武田宗典</u> <u>新江和人</u> <u>金子聡哉</u> <u>佐川勝貴</u> <u>木月章行</u> <u>田口亮二</u> <u>武田祥照</u> <u>関根祥丸</u> <u>井上裕之真</u> <u>久田勘吉郎</u> <u>杉浦悠一朗</u> <u>武田崇史</u> <u>津村聡子</u> <u>寺井千景</u> <u>寺井美喜</u></p> <p>(以上 32 名の中から公演日期間によりシテ方 11 名(土蜘蛛・舍利)または 10 名(安達原)を選定する)</p> <p>【ワキ方】 <u>森常好</u> <u>福王和幸</u> <u>村瀬提</u> <u>村瀬慧</u> <u>館田善博</u> <u>梅村昌功</u> <u>野口能弘</u> <u>大日方寛</u> <u>則久英志</u> 等</p> <p>(公演日期間によりワキ方 4 名(土蜘蛛)2 名(舍利)または 3 名(安達原)(内 働き 1 名)を選定する)</p> <p>【囃子方】 <u>一噌隆之</u> <u>松田弘之</u> <u>榎宅聡</u> <u>飯田清一</u> <u>幸信吾</u> <u>幸正昭</u> <u>森澤勇司</u> <u>鶴澤洋太郎</u> <u>観世新九郎</u> <u>亀井広忠</u> <u>原岡一之</u> <u>安福光雄</u> <u>柿原弘和</u> <u>柿原光博</u> <u>高野彰</u> <u>小寺真佐人</u> <u>桜井均</u> <u>榎谷英樹</u> <u>小野寺竜一</u> <u>杉信太朗</u> <u>熊本俊太郎</u> <u>田邊恭資</u> <u>亀井洋佑</u> <u>佃良太郎</u> <u>大倉栄太郎</u> <u>大倉慶之助</u> <u>林雄一郎</u> <u>金春惣右衛門</u> 等</p> <p>(公演日期間により囃子方 4 名を選定する)</p> <p>【狂言方】 <u>山本泰太郎</u> <u>山本則孝</u> <u>山本則重</u> <u>山本則秀</u> <u>三宅右矩</u> <u>三宅近成</u> 等</p> <p>(公演日期間により狂言方 2 名(内 働き 1 名)を選定する)</p>	